

市民からの意見を踏まえた対応方針(案)

意見交換会で市民から整備基本計画に関する意見に対する以下のような対応方針案を示す。

1. ごみメタン化施設の調査・研究について

(意見)

ごみメタン化施設の調査・研究はどこまで進んでいるのか。

(理由)

- ・ 資源化基本計画の議論の際、ごみメタン化施設の調査・研究をすることになっていた。
- ・ 焼却以外の残さの適切な処理方法があるのではないか。

対応方針(案)

① 「ごみメタン化施設の調査・研究」について

本専門部会において、既存施設のメタン化施設について、視察、アンケート調査、文献調査等から実施しており、今後も必要に応じて既存施設の調査、追加のメーカーヒアリング、建設中の自治体にヒアリングを行い、課題などをさらに抽出し、解決に向けた検討を行い整備基本計画の策定を行っていく。

② 「焼却以外の残さの適切な処理方法」について

発酵残さについては、堆肥化等の方法が考えられる。しかし現状の可燃ごみの収集形態においては、可燃ごみの機械選別によって選別されたバイオガス対象物をメタン発酵した場合、その発酵残さ中にはビニール等不適物が含まれており、そのままでは堆肥化は難しいと言われている。本市において、どれだけ分別精度を上げられるのか、また、分別収集のモデル地区の実施も含めて検討を行っていくことが重要である。

発酵残さそのものは、乾燥することにより、焼却施設の熱エネルギーの補助燃料等としても有効利用が考えられる。

発酵残さを堆肥化するためには、例えば、乾燥→異物除去のための選別（風力選別、機械選別等）→堆肥化施設 等が考えられるが、今後、経済性、堆肥の需要量、技術的な可能性等について事例調査等の調査、検討を行っていく。

2. ごみメタン化施設の規模について

(意見)

ごみメタン化施設の規模を大きなものにすることに對し懸念を覚える。まずは小規模の実証実験から始めるべき。

(理由)

- ・ 大規模なごみメタン化施設でうまくいっている所が少ない。
- ・ 費用対効果
- ・ 多額の予算を使う計画をいきなり始めることに対する不安感
- ・ 不確定要素の存在

対応方針(案)

既存のメタン発酵施設についてヒアリング等を行った結果では、大規模な施設だから、うまくいっていない施設というのはなかったが、今後支障が発生しているような事例があるのか、さらに調査を続けていく。

費用対効果としては、メタン発酵施設の規模が小さい場合は、メタン発酵槽の加温のために別にボイラ等を設置しなければならず、却って維持管理が高くなることになる。また、発生したメタンガスを十分に利用できる量が確保できない等も想定されるので、有効利用量、有効利用形態等の検討を含めて規模の設定を行っていく。

現在メタン発酵施設の建設中の自治体に建設費や不安感、不確定要素等について、どのように対応されてきたのかヒアリング等を行い、その結果を周知広報するとともに今後の整備計画等の参考とする。

3. ごみメタン化施設からの残さの焼却について

(意見)

ごみメタン化施設からの残さを焼却することに對し反対。

(理由)

- ・ 基本理念に反する。
- ・ 燃やしてしまうのでは資源化とはいえない。

対応方針(案)

発酵残さについては前述した「焼却以外の残さの適切な処理方法」に準拠する。

4. 施設の安全・安心、低環境負荷について

(意見)

安全・安心な施設を造ってほしい、環境影響（排気中の化学物質など）を計測し、しっかりと公表してほしい。

対応方針(案)

新施設の建設に際しては、施設稼働中の公害監視計測データを電子掲示板などで常時提示し、市民に積極的にデータを公表する。市民がいつでも監視できるようにする。

5. エネルギー供給について

(意見)

発電した電力を市民（近隣？）に提供する意見が多かった。

対応方針(案)

発電により得られた電気を市民(近隣?)に供給するには、電気事業法等の規制があり、規制、制約等をクリアするにはかなり困難と考えられる。今後、発電による得られた電力の有効利用について市民の意見も含めて検討していく。また、メタンガスの有効利用についても同様に有効利用方法、有効利用形態を検討していく。